

# 競輪事業の持続的発展に向けた中期基本方針 (2016年6月30日競輪最高会議決定) と現状

令和2年6月15日

- 公益財団法人 J K A
- 公益社団法人全国競輪施行者協議会
  - 一般社団法人日本競輪選手会

# I. 中期基本方針の概要と目標値

○中期基本方針は、「競輪界の本質的な課題」を克服し、「低迷する競輪」に逆戻りさせないための、競輪界の最高意思決定機関の構成員であるJKA、全国競輪施行者協議会（全輪協）及び日本競輪選手会（日競選）が、一丸となって改革を実行していく決意を明らかにするものとして、産業構造審議会製造産業分科会車両競技小委員会での議論を踏まえ、2016年6月30日に競輪最高会議で決定。

○2016年度から5年間において、「お客様第一主義」の下、中期基本方針に基づく事業運営や施策を着実に実行することとし、2020年度までに達成する目標値を設定。

○設定した目標値と2020年3月末までの達成値は以下のとおり。

## 【目標値（2020年度）】

売上	7,000億円以上
施行者収益	160億円以上
競輪場	43場体制の維持
競輪選手数	2,400名程度の維持

## 【現状（2019年度）】

売上	6604.6億円
施行者収益	169億円 (2018年度)
競輪場	43場体制
競輪選手数	2,379名

本年2月末から始まった無観客開催の影響による落ち込みはあったが、前年比101.0%と6年連続の売上増を記録した。選手数は概ね目標通り2,400名程度を維持した。

## **Ⅱ. 本質的な課題解消のための具体的方策**

(1) 施行者の安定的経営の実現

# ① 不採算レースの改善【JKA】

## 基本方針における記載事項

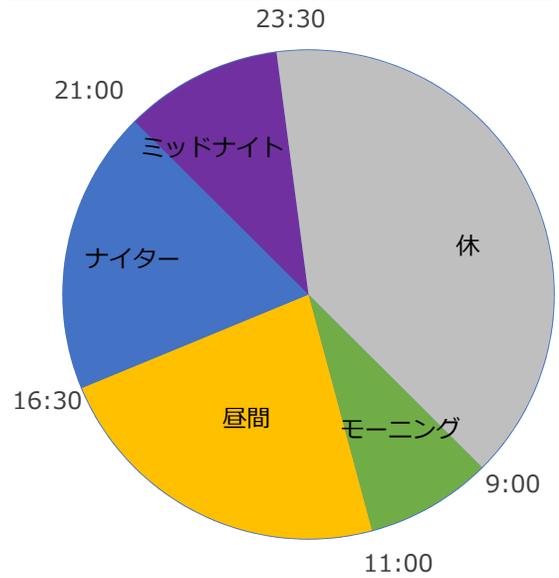
### 【課題】

F IIレースの売上改善が必要である。

### 【今後の進め方】

- JKAを中心としたプロジェクトチーム（以下「PT」という。）を発足させ、F IIレースの役割や位置づけ及び開催日程や場外発売のあり方、情報提供のあり方といった具体的な課題を明確化し、2016年度中にそれぞれの課題の改善策を示すこととする。
- 施行者や場外車券売場の協力を得て、2016年度下期及び2017年度上期に改善に向けた仮説の有効性を実証する。
- 2017年度下期から、少なくとも土日を含む開催については改善策を踏まえた開催とする。

## 競輪の一日開催スケジュール



## 現状（これまで講じてきた対策）

- 2016年8月に発足した関係団体で構成するPTを2017年9月までに4回開催し、進め方を検討し、競輪関係団体で構成する部会においてF IIレースの活性化を図ることとなった。若い年齢層の会員が多い民間ポータルサイトに7車立のレースを購入する利用者が多いというデータを基に、昼間・ナイター開催における7車立12レース制（2018年6月開始）、ミッドナイト競輪における7車立9レース制（2018年10月開始）、モーニング競輪における7車立7レース制（モーニング7）（2017年10月開始）といった施策を実施。こうした取組の結果2019年度のF IIレースの売上は2016年度と比較して約150%と大きく増加し売上改善が図られた。
- F IIレースの改善に向けた仮説の有効性については、発売機会の拡大を目的とした場外発売の拡大や、魅力的な選手のあっせんと番組編成をはじめとした課題を検討し、引き続き検証中。
- 7車立のレースによる土日を含めた開催については、平日のみの開催も含めて2開催行う競輪場を募集。実際に開催し売上等の検証を行っている。

ライフスタイルの変化に合わせたレースの提供を行い、投票機会の損失を防いでいる。

車立別に購入できる車券の組み合わせ

	9車立	7車立	点数差
2車複	36通り	21通り	15通り
2車単	72通り	42通り	30通り
3連複	84通り	35通り	49通り
3連単	504通り	210通り	294通り
ワイド	36通り	21通り	15通り

9車立のレースよりも7車立のレースは予想する点数も少なく初心者に分かりやすいと受け入れられている。

# F II 開催 直近5年間 売上推移

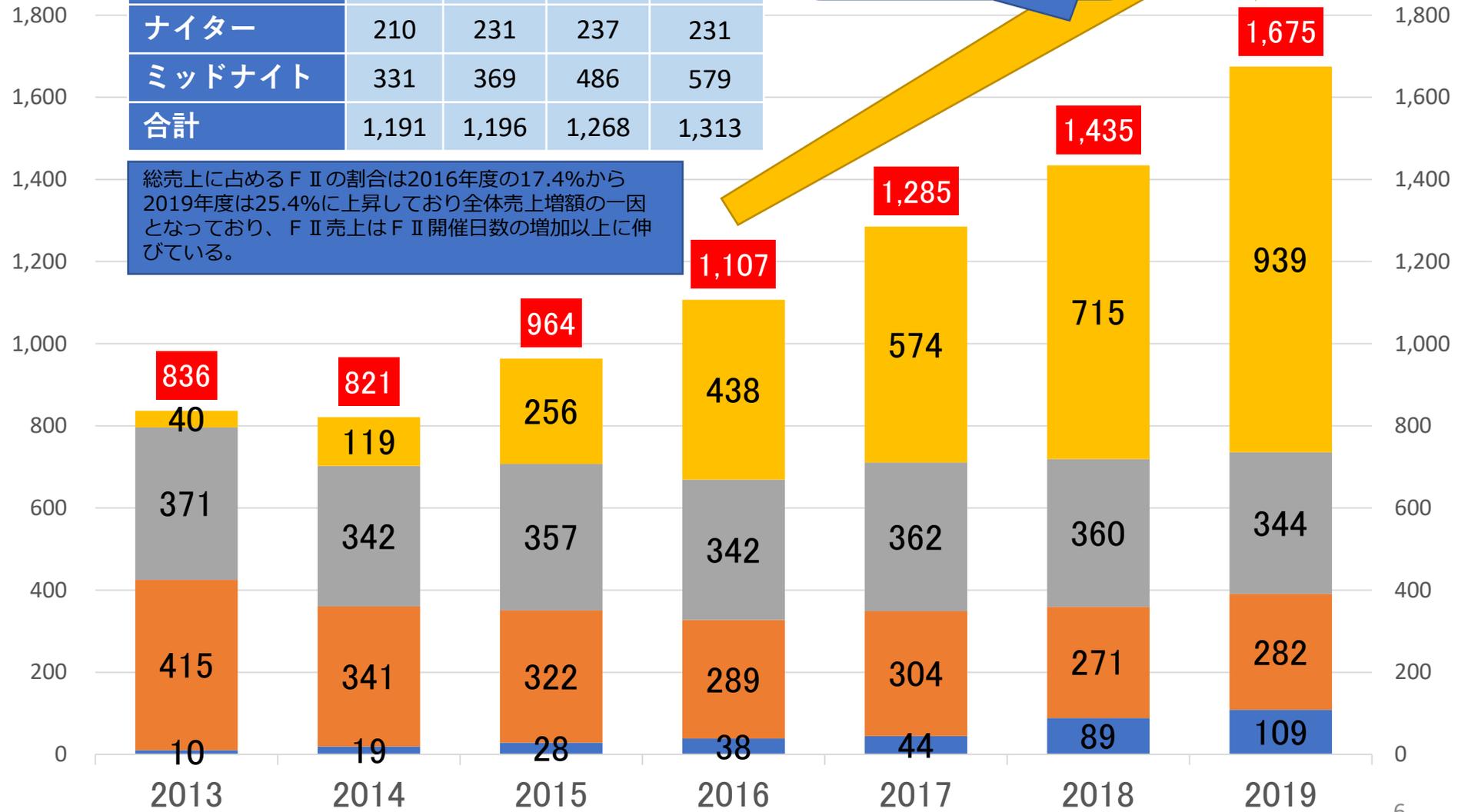
日数 (年度)	2016	2017	2018	2019
モーニング	96	93	159	153
昼間	554	503	386	350
ナイター	210	231	237	231
ミッドナイト	331	369	486	579
合計	1,191	1,196	1,268	1,313

2019年度は方針策定時(2016年度)の150%まで増加

開催区別売上 (単位: 億円)

F II 総売上 (単位: 億円)

総売上に占める F II の割合は2016年度の17.4%から2019年度は25.4%に上昇しており全体売上増額の一因となっており、F II 売上は F II 開催日数の増加以上に伸びている。



■ F II モーニング ■ F II 昼間 ■ F II ナイター ■ F II ミッドナイト

# 競輪売上額内訳（2019年度【参考】）

	開催 日数	対前 年比	車券売上額	対前 年比	占有率
本場	2,298	101.9%	212.9億円	80.9%	3.2%
場外計	76,954	95.5%	2,765.9億円	86.0%	41.9%
場間 場外	16,877	93.9%	1,532.5億円	82.9%	23.2%
専用 場外	60,077	95.9%	1,233.4億円	90.2%	18.7%
電話投票	2,298	101.9%	3,625.8億円	118.4%	54.9%
CTC	2,298	101.9%	1,578.5億円	101.6%	23.9%
民間 ポータル	2,298	101.9%	2,018.2億円	136.1%	30.6%
重勝 式	2,298	101.9%	29.1億円	105.8%	0.4%
<b>合計</b>	<b>2,298</b>	<b>103.5%</b>	<b>6,604.6億円</b>	<b>101.0%</b>	<b>100.0%</b>

	開催 日数	対前 年比	2019年度	対前 年比	2018年度
G I	29	100%	570.3億円	94.8%	601.6億円
G II	11	100%	135.1億円	75.9%	177.9億円
G III	158	100%	1,738.1億円	90.4%	1,923.2億円
F I	787	99.7%	2,486.6億円	103.4%	2,404.2億円
F II	1,313	103.5%	1,674.8億円	116.7%	1,434.6億円
モーニング	153	96.2%	108.9億円	122.5%	88.9億円
昼間	350	90.7%	282.1億円	104.3%	270.5億円
ナイター	231	97.5%	344.4億円	95.8%	359.6億円
ミッド ナイト	579	119.1%	939.3億円	131.3%	715.5億円

無観客開催により3月G IIをはじめ大きな影響あったが、一年を通して堅調な売上でトータルの前年比はプラス。F IIは240億円増で貢献。

※表の点線以下は内数になります。

### 基本方針における記載事項

#### 【課題】

①のFⅡの収益性の向上策や販売網の利用戦略なども含めた各競輪場の市場規模に応じたビジネスモデルを構築することが必要である。

#### 【今後の進め方】

- 全輪協を中心としたPTを発足させ、2016年度中に各競輪場の強み・弱み分析を実施する。
- また、2016年度中にモデル場を数場選定し、先行モデル場におけるビジネスモデルを確立する。
- 2017年度は、先行モデル場において確立されたビジネスモデルをその他場の市場規模に応じたものに最適化し横展開する。

### 現状（これまで講じてきた対策）

- 全輪協を中心とした関係団体PT（2016年8月設置）及び関係団体で構成される成長戦略WG、競輪活性化委員会等における検討の結果、2016年度以降、日程分散・平準化による多様な開催・レース提供と連動して、ミッドナイトレース拡大、モーニングレース拡大、グレードレースのナイター化の取組を実施した。
- 他方、各競輪場の強み・弱み分析を行った上で、各競輪場の実情に応じたビジネスモデルを模索・確立・実行に移せていなかった。併せてビジネスモデルを模索・確立していくプロセスにおける試行的取組や不確実性のある取組は、各施行者が売上・収益の両面での成果が出る可能性が高いと判断できずに実施が進んでいなかった。
- このため、2018年3月の車両競技小委員会とりまとめにおいて、上記を実行していくためには、施行者間調整ルールが必要であること、併せて、日程面のみならず、資金面でのインセンティブが必要であることが提言された。
- これにより、投資のための財源確保と併せ、施行者間調整ルールとインセンティブの仕組みの構築に向けて、試行的な取組を義務的に実施する先導的施行者（仮称）を選定し、義務に見合ったインセンティブを付与する仕組みの検討を2018年4月から行った。
- このインセンティブの財源については、JKAと全輪協の留保資金の一部を活用すること及び経済産業省の法律改正により財源確保のための手当てをすることが検討されたが、結果として2018年10月に経済産業省が法律改正を断念したことにより目標とする財源の確保が困難となり、上記仕組みを構築するに至らず白紙となった。
- しかし、その後、全輪協、JKA、日競選の関係3団体において「競輪事業の持続的発展に向けた取組の骨子」をとりまとめ、2019年3月の競輪最高会議で業界決定した。この取組の中で関係団体及び施行者が提案する「モデル事業」を実施し、施行者の新たな取組をサポートできる制度を構築し、2019年6月から運用を開始している。
- また、2021年度から「競輪事業活性化競輪」を実施し、その収益の一部を財源として、投票機器、映像機器等における多場併売のシステム整備、促進に取組む施行者をサポートできる制度の構築を検討している。

### ③ 先進的な取り組みをはじめとする業界内情報共有の仕組みの構築【JKA】

#### 基本方針における記載事項

##### 【課題】

JKAと施行者・場外発売施設が意見交換を行う場が必要である。

##### 【今後の進め方】

- JKAは、車券発売を実施する競輪施行者や場外発売施設の運営担当責任者と、お客様の動向を踏まえた最新の取組等について双方向のコミュニケーションが可能となる会議体を2016年度中に設置し、2016年度下期に開催する。
- 2017年度以降、少なくとも半期に1回以上の頻度で定期的な開催し、スピード感をもって取組が推進できる体制を構築する。

写真①



写真②



写真③



#### 現状（これまで講じてきた対策）

- JKAは、各エリアに配置したエリア長等がグレードレース開催時や施設調査の際に施行者と意見交換を行い、各競輪場の現状等を把握するとともに、施行者のニーズ等について意見交換を行ったほか、場外発売施設の全国組織である全国場外車券売場設置者協議会と年間3回程度定例会議を実施し、意見交換を行った。
- 会議体を設置し半期に一度実施している。
- 施行者や競輪業界が提案する「効果の期待できる施策（モデル事業）」をサポートする仕組みを作り、2019年度は、宇都宮競輪場で行った「eスポーツ体験」（写真①）イベント他全10件のサポートを行った。2020年度も施行者が提案しやすいよう課題解決しながら引き続き実施する。
- 施行者との意見交換を踏まえて、「広島競輪場とJリーグサンフレッチェ広島とのコラボイベント」（写真②）、「立川競輪場とBリーグアルパルク東京とのコラボイベント」（写真③）等を施行者と協同で実施し、新規のお客様獲得を図り、来場されたお客様からは好評を得た。
- 場外発売施設との意見交換を踏まえて、各発売施設の要望が高かった競輪場間のレース発走時刻の調整、各発売施設の要望にあわせポスターやデジタルサイネージ用素材といった各種PR素材の提供、全国各地の発売施設で統一したKEIRINGグランプリイベントの実施等を行い、来場されたお客様からは好評を得た。

## (2) 民間企業の積極的活用と環境整備

# ① マーケティング能力のある民間ポータルサイトなどの活用の明確化【J K A】

## 基本方針における記載事項

### 【課題】

○民間ポータルサイトと連携し、民間事業者の有する情報や分析結果を活用することが必要である。

### 【今後の進め方】

○J K Aは、2016年度中に民間ポータルサイト等との連携方針とテーマを決定するとともに、民間企業からテーマに沿った情報を提供してもらい、2017年度以降、優先度の高いものから実施する。

## 現状（これまで講じてきた対策）

○J K Aと各民間ポータルサイト間で個別意見交換会を実施し、会員数や売上等の一部の情報を個別意見交換会等で提供を受けた。

○民間ポータルサイトとの意見交換会において、昼間開催やナイター開催が最も多いF I開催は、他のグレードも含め競合する開催が多く、レースの発走時刻が重なり投票機会の損失に繋がっており対策が必要という要望を受け、全国的なレース発走時刻の調整といった施策を実施した結果、発売機会の損失が軽減し、民間ポータルサイトの売上増の一因となった。

引き続き意見交換会を催し、売上市場を掴み改善点等の課題について情報共有していく。



2019年6月15日、ヤフオクドームにおいて開催された「プロ野球セ・パ交流戦 福岡ソフトバンクホークスvs横浜DeNAベイスターズ」戦が民間ポータルサイト1社による公式戦協賛試合だったことから、同社協賛のガールズグラプリ優勝者の児玉碧衣選手（福岡）が始球式に登板しました。

### 基本方針における記載事項

#### 【課題】

○民間事業者の経営実態を把握することが必要である。

#### 【今後の進め方】

○JKAを中心としたPTを発足させ、2016年度中に民間事業者の経営実態を把握するガイドラインを設定し、2016年度の民間事業者の決算報告から経営実態を把握できるようにする。

### 現状（これまで講じてきた対策）

○関係団体で構成するPTで進め方を検討した結果、経営実態の把握を行うため、決算公告等開示情報を用い、各社との個別意見交換会を開催し、売上等各種データの提供依頼、ヒアリングを行った。新規参入にあたっては、施行者代表の推薦を受け、全輪協の情報関連委員会において審議し決定を行うことで顧客保護に努め、また、参入後、関係団体の協議を必要とするトラブルや確認が必要な事項が発生した場合は、施行者代表と調整の上、関係団体で構成する情報システム部会で確認することとしている。

### (3) 新規顧客獲得に向けた体制の構築

# ① 新規顧客獲得策の戦略的な実施と継続的な実施体制の構築【JKA】

## 基本方針における記載事項

### 【課題】

○ロードレースファンをはじめとする自転車競技ファンの誘致策を実施することが必要である。

### 【今後の進め方】

○JKAを中心としたPTを発足させ、スポーツ関係者をはじめとする多様な有識者からの助言を得つつ、東京オリンピック・パラリンピック大会を契機とする新規顧客獲得策を2016年度中に取りまとめ、2017年度から実施する。

## 現状（これまで講じてきた対策）

○ロードレース大会やサイクルイベント等においてPRを行うことをPTで確認し、JKAは、ジャパンカップサイクルロードレース（来場者数・約8万人）、ツアーオブジャパン（来場者数・約29万人）、ジャパントラックカップ（2018年度来場者数・約2000人）、バンクリーグ（来場者数・約0.1万人）等の国内主要自転車競技大会、サイクルモード（来場者数・約2.6万人）等の自転車愛好家の集客があるイベント等へのブース出展とともに車券購買意識アンケートを実施し、自転車競技ファンにPRを行った。アンケートでは、全ての会場で「世界トップの外国人選手が出走する競輪レースを観戦したい」という声が9割以上だった。また新たな競走として「250KEIRIN（仮称）」（写真①）の実施に向けた検討を行い整備を進めている。

○競輪や自転車競技の情報を発信するサイト「More CADENCE」（写真②）を2017年に新設し、海外を含めた自転車競技の大会や世界の強豪選手の情報を発信し（写真③④）、自転車競技ファンを誘引、併せて短期登録選手に関する情報、競輪のビッグレースに関する情報等を発信し自転車競技ファンへ競輪の情報を届けている。（2018年度PV数は約320万人、2019年度PV数は約520万人と増加した。）

○車両競技小委員会三屋委員が会長をされているバスケットボールのBリーグとのコラボイベントを（来場者数・2615人）実施し、Bリーグのターゲットである若者に対してPRを行った。また旅行代理店と意見を交換し、観光先としての競輪場の魅力について助言を得るとともに観光パンフレット「るるぶ」（写真⑤⑥）（発行部数・約2万部）をJKAの女性職員で構成されるPTにおいて、女性目線で作成し、競輪場とその周辺の観光名所・グルメ情報等を掲載し競輪のPRに活用した。最新号（『福井で遊ぼう♪編』）においては、ファミリーレストランや商業施設等の配布場所において9割以上が持ち帰られた。



写真①



写真②



写真③



写真④



写真⑤



写真⑥

## ② 既存商品の売上の最大化【全輪協】

### 基本方針における記載事項

#### 【課題】

重勝式車券については、発売機会の拡大などによりキャリアオーバーが貯まりやすい仕組みを導入し商品の魅力を高め、売上を最大化することが必要である。

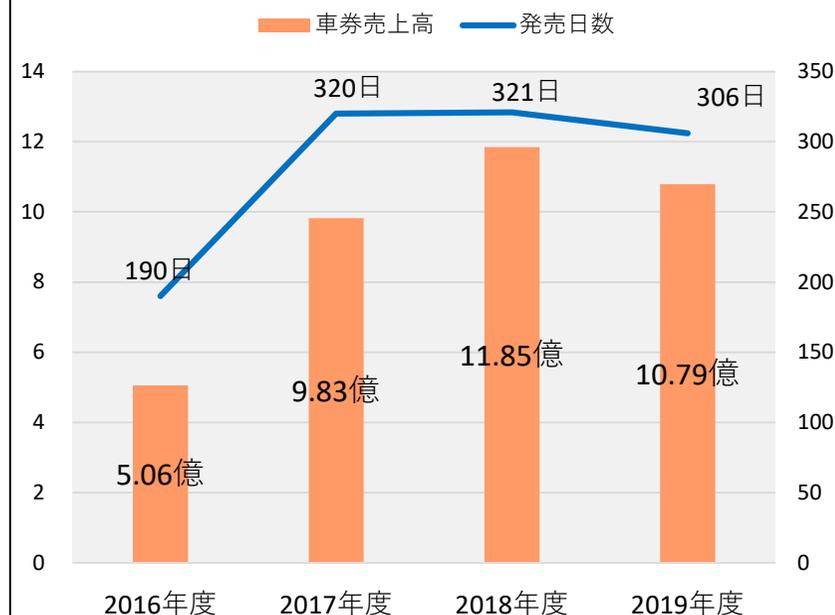
#### 【今後の進め方】

- 全輪協を中心としたPTを発足させ、2016年度上期中に課題を整理し、2017年度早期の取組開始を目指す。

### 現状（これまで講じてきた対策）

- 全輪協を中心とした関係団体PT（2016年8月設置）及び全輪協の内部委員会における検討の結果、重勝式車券Dokanto!（ドカント）の発売機会の拡大策として、発売対象開催をこれまでのGグレード開催に加え、FI開催まで拡大することを2016年度上期に決定し、2017年度から発売日数を増加した。
- その結果、発売日数が2016年度190日→2017年度320日（+130日）、車券売上高が2016年度505,721千円→2017年度982,605千円（94.3%増）と、2016年度を大きく上回る実績となった。
- 2018年度実績は、発売日数321日、車券売上高1,184,832千円と、さらに2017年度を上回る結果となった。（売上対前年度比20.6%増）
- 一方で、2019年度実績は、発売日数306日、車券売上高1,079,269千円と、2018年度を下回る結果となった。（売上対前年度比8.9%減）
- 主な減少要因として、発売日数の減少（-15日）、Dokanto!の2つの賭式のキャリアオーバー額に顧客ニーズが不一致であったことが推察される。

Dokanto!の発売日数及び売上推移



(4) 競輪選手が実力を最大限発揮できる環境の整備

# ① 選手の競走環境の安定化【日競選及びその他の関係団体】

## 基本方針における記載事項

### 【課題】

選手共済制度（退職給付、競輪選手年金）の建て直しについて

### 【今後の進め方】

○日競選及びその他の関係団体は、2016年度中に選手共済制度のあり方について検証を行い、持続可能性のある制度に向けた成案を得ることとする。

## 現状（これまで講じてきた対策）

中期基本方針では、「お客様に満足いただけるレースを実現するためには、全ての選手が全てのレースで最高のパフォーマンスを発揮することが必要であり、競輪選手が日々の鍛錬に全てを注ぎ込める環境を整備することが求められる。」「競輪選手が誇りを持ってレースに臨んでもらうため、積年の課題である選手共済制度の建て直しについても取り組む。」と定められた。

これを達成するためには、安定的な共済制度（退職給付及び競輪選手年金）の維持、運営が必要であり、業界全体で支援していくことが確認された。

1. 競輪最高会議（2017年3月29日）において、関係団体で構成する退職給付及び競輪選手年金制度運営委員会で確認された収支計画に基づく「選手共済制度（退職給付及び競輪選手年金）における確認事項」が承認された。  
前記確認事項、収支計画に基づき退職給付、競輪選手年金制度を運営している。

・制度の安定的運営に資するための日競選の自助努力、競輪発展のための自主的施策

(1) 自助努力 2017年度から年間3,000万円を日競選から拠出。2018年度からは年間3,500万円に拡大した。

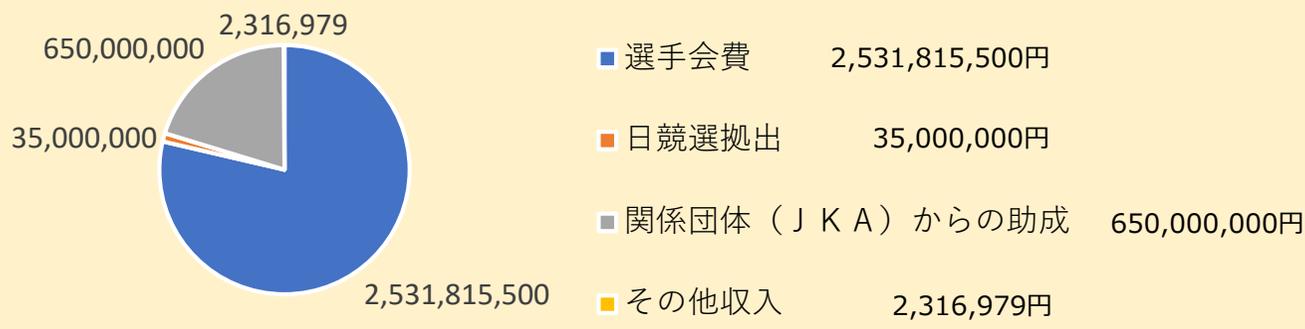
(2) 新規顧客獲得のための施策

2017年、2018年はお客様参加型の「新人選手応援企画」を実施。2019年からは競輪選手ファンクラブを立ち上げ運営を開始。

# ① 選手の競走環境の安定化【日競選及びその他の関係団体】

## 現状（これまで講じてきた対策）

【収支計画に基づく2018年度収入】



- 2. 退職者数は収支計画の想定数で安定しており制度は安定的に運営されている。  
さらなる自助努力、競輪発展のための施策を検討する。

## ② 選手の魅力向上による活性化【日競選】

### 基本方針における記載事項

#### 【課題】

選手強化のための育成方法のあり方について

#### 【今後の進め方】

○日競選は、J K Aとともに、2016年度中に選手強化のための育成方法のあり方を検討し、2017年度以降実施する。

### 現状（これまで講じてきた対策）

#### 【検証】

競輪選手全体の能力の向上のためには、競輪選手がナショナルチーム強化コーチ等の先進的な知見を持った専門家の指導を受け、自らの適性に合ったトレーニング方法を理解できるような環境を整える必要がある。

#### 1. ナショナルチームコーチの指導、講義

- ①2017年度から「新人選手教育訓練第2次教育研修（デビュー2年目の選手が対象の訓練）」においてナショナルチームコーチによる世界最先端のトレーニング方法について等の講義を実施。



ブノワ・ベトウ ナショナルチームコーチによる世界最先端のスプリント選手のトレーニング理論の講義



ジェイソン・ニブレット ナショナルチームコーチによるウエイトトレーニング理論の実践講義

## ② 選手の魅力向上による活性化【日競選】

②2017年度の講義について映像を収録したDVDを作成し、2018年度「技能訓練指導員講習会（支部で選手の訓練を担当する指導者に対する講習会）において映像による講義を実施。また、DVDは希望した選手が視聴できるよう各支部に配布。

③2019年度は「技能訓練指導員講習会」においてナショナルチーム担当者を招き最新のトレーニング方法についての講義を実施。

### 2. 専門家による講義

新人訓練、特別指導訓練（競走上において特に指導を必要とする選手に対する訓練）において専門家による講義を実施。

・講義内容「体幹トレーニング」、「メンタルトレーニング」、「リカバリートレーニング」、「栄養学」等

### 3. 世界で実績のあるブノワ・ベトゥ、ジェイソン・ニブレットコーチらのスタッフを招聘した自転車競技ナショナルチームは、国際自転車競技大会で好成績を挙げている。

2019年シーズンのワールドカップ（世界的な自転車競技大会、オリンピックの出場枠獲得のための大会ともなっている）の成果

⚡ **金メダル 4個**

⚡ **銀メダル 1個**

⚡ **銅メダル 6個**

これら成果については、「国際自転車トラック競技支援競輪」からの支援により運営される「ハイ・パフォーマンス・センター・オブ・ジャパン・サイクリング（HPCJC）」の世界最先端のトレーニング理論や機材の活用、様々な分野のプロフェッショナルによるバックアップが大きく寄与している。

【国際自転車トラック競技支援競輪について】

2015年度以降年に2開催が行われ、その収益の一部を自転車トラック競技支援に充てている。2018年度までの4か年で拠出金額は11億3800万円以上となっており、「HPCJC」への支援等に充てられている。

【HPCJCについて】

2018年度から本格的な活動が開始された伊豆ベロドロームを拠点としたトレーニング強化施設であり、世界レベルのコーチをはじめ、選手コンディション等を科学的な側面からケアするスタッフなど様々な分野のプロフェッショナルにより構成される。

## ② 選手の魅力向上による活性化【日競選】

### 基本方針における記載事項

#### 【課題】

お客様が望む選手情報の提供について

#### 【今後の進め方】

○日競選は、競輪関係団体の協力を得つつ、2016年度中にお客様が望む選手情報について検証を行い、2017年度以降、情報提供を行う。

### 現状（これまで講じてきた対策）

#### 【検証】

グレードレースに出場するS級選手の情報は、KEIRIN.JP、新聞、専門紙等によって取り上げられ、比較的手軽に入手することができるが、**A級選手の情報はあまり取り上げられない**ため、お客様が知ることは少ない状況にある。

特に、**有望な新人選手の話はお客様の興味を惹くもの**であり、お客様の意向に応えた情報を提供する必要がある考えから、以下（次頁以降）の取り組みを実施した。

# ② 選手の魅力向上による活性化【日競選】

## ① 2017年4月より本会ホームページに選手情報を掲載

マスコミ等にあまり取り上げられないことのないA級選手の情報を中心に「A級好調選手ピックアップ、新人選手初優勝選手コメント、A級イケメン選手紹介」等を掲載した。他では知ることのない選手情報の提供にお客様からは目新しさを喜ぶ声をいただいた。

## ② 2017年8月に本会ホームページをリニューアル

旧ホームページでは情報掲載量、見易さの点で問題があったことからホームページをリニューアルした。

## ③ 2018年1月からツイッターアカウントを開設、ホームページと連動して情報を掲載

ホームページに掲載するだけでは情報の受け手側の能動的アクセスが必要となること、情報の更新が伝わらないことから、SNSを使い受け手側に情報を積極的に投げかけていくこととした。

ツイッターについては開設以降順調にフォロワー数を伸ばしており、お客様が望む選手情報を提供できていると評価できる。

また、プレゼント企画により競輪を知らない層からのフォローも多く獲得し、合わせて初心者向けの制度解説や選手の魅力を発信することで競輪への興味喚起を図り、新規顧客獲得に寄与した。



① A級選手の情報をホームページに掲載



② リニューアルしたホームページ更新情報をわかりやすくホームページ画面に表示



③ 更新情報をツイッターに掲載しホームページへの誘因を図る

# ② 選手の魅力向上による活性化【日競選】

## ④ 2018年5月から新人選手の情報を発信

新人選手について、デビュー後の開催の注目度アップと車券売上向上に資する目的で、全員のプロフィール情報を掲載。

お客様から多くの反応をいただくとともに、新人選手本人が掲載された自身のプロフィールを「応援よろしくお願ひします」等のコメント付きでリツイートするなど、お客様への新人選手アピールに貢献した。

## ⑤ 2018年から本会が主管する全日本プロ選手権自転車競技大会（全プロ大会）、主催する地区プロ自転車競技大会（地区プロ）の情報を掲載

自転車競技普及活動、競輪PR活動の一環として全プロ大会、地区プロ大会の開催、全プロ大会のライブ中継、イベント等の事前告知、結果等を掲載した。また、全プロ大会ではリアルタイムで競技経過を発信した。

全プロ大会ライブ中継視聴者については年々増加傾向にあり、東京オリンピックの気運も相俟って自転車競技の普及振興の一助となった。

第67回全プロ大会（豊橋）は新型コロナウイルス感染症の影響により中止となったが、中止を惜しむ声が後を絶たず、同大会がお客様に支持されていることがうかがえた。

**新入会員プロフィール（早期卒業選手）**

氏名	中嶋 浩平
登録番号	15413
所属クラブ	徳島
生年月日（年齢）	1994年1月4日(26)
血液型	O
身長	171.0

**競輪守破成績**

1着	2着	3着	負け
21	1	1	2

**Q&A**

デビューに向けての感想

同期がデビューする7月までには必ず名前を特許します。目標とする選手、尊敬する選手。同期の志を継ぎたいです。

どのような選手になりたいですか？

名前のトップでも有名、走り実力で勝つことが出来る選手になりたいです。

得意な競走の、得意にこなしたいという選手

得意な競走は勝ります。トップスピードは競にも負けません。

競輪以外の特技

パソコンが好きで、自分で自作PCを作ることもあります。

お客様へのメッセージ

トップスピードを競いに先行、走り実力で勝利に貢献できるような選手になります。応援よろしくお願ひします。

**先輩選手コメント**

【競輪会長・福井・1999・66回】【競輪会長・福井・1997・65回】

選手として売れている選手はどのような選手ですか？

- 競輪は自転車競技にひたむきな姿勢と高い志をもち負けない精神力。
- スピード、持久力ともにトップレベルで勝負能力が高い。

浩平、どのような選手になってほしいですか？

- 勝みだけでなく、遠慮なく、そして全国のファンや選手から尊敬される選手になってほしい。
- Q&Aスタイルもどうぞ。

④新人選手のプロフィールの他に師匠等先輩選手のコメントも掲載

## ⑤ 全プロ大会をネットでライブ中継

令和元年 第66回 全日本プロ選手権自転車競技大会 in 松山競輪場

9:20-18:30

スカパー! プレミアムサービス 699ch

新時代の自転車競技が熱い！

全プロ記念競輪 1

5/25(土) 松山競輪場 10:00-17:00

5/26(日) 松山競輪場 10:00-17:00

スカパー! オンデマンドでも配信!!

0120-816-347

## ② 選手の魅力向上による活性化【日競選】

### ⑥ GⅡ、GⅢ開催参加選手のコメント動画を配信

2020年3月以降、新型コロナウイルス感染症の影響で競輪開催が無観客となったことから、お客様へ選手の声を届けるべく、GⅡ、GⅢ開催の前検日に、参加選手（30名程度）のコメント動画を配信した。

お客様から開催現場に足を運べないことを残念がる声があがる一方、コメント動画に対して選手を応援するメッセージが多く寄せられた。

#### 【対象開催及び動画再生回数】

- ◆玉野GⅢ（3/5-8）…285回
- ◆松山GⅢ（3/12-15）…516回
- ◆ウィナーズカップ（福井／3/26-29）…1,236回
- ◆高知GⅢ（4/2-5）…705回
- ◆武雄GⅢ（4/23-26）…1,132回



⑥ GⅡ、GⅢ参加選手からのメッセージ動画をツイッターに掲載



★2017年4月より2020年4月までに284人の情報を掲載

★本会ツイッターアカウントのフォロワー数は5,320人（5月26日現在）。

【フォロワー数推移】2019年5月1日…2,263人 2020年2月28日…3,048人  
約1年間でフォロワー数は倍増した。

★2019年の全プロ大会のライブ中継は約24,000人が視聴。

※選手情報だけではなく、業界の新規施策等の情報提供についても積極的に展開する。

※選手の身近な、生の情報を取得可能な支部との連携を強化することを検討する。

現在、一部の支部にとどまっているブログ、ツイッターを多くの支部で開設できるよう働きかける。

## ② 選手の魅力向上による活性化【日競選】

### 【競輪選手会オフィシャルファンクラブの活動について】

競輪の新規顧客獲得やお客様に選手をより身近に感じてもらうため、「競輪選手会オフィシャルファンクラブ」を立ち上げ、これまで様々なファンサービスを行った。2019年7月開設当初の会員数は1,361名であったが、本年4月現在では2,359名まで増えている。

#### ①地区プロ大会観戦ツアーを実施

ヤマダグリーンドーム前橋にて関東地区プロ大会観戦ツアーを行った。

本イベントは「後閑信一さんと行く地区プロ大会観戦ツアー」と銘打ってファンクラブ会員より観戦者を募集し、バンク内観戦、後閑信一氏の競技解説、1kmタイムトライアルとケイリンの勝者当てクイズ、バックヤード見学、表彰式プレゼンターといった多くの催しを実施。

イベント中は、平原康多選手をはじめ数名の選手が観戦所に来て、参加者との写真撮影等の交流を行い、輪選手を身近に感じていただいた。



①関東地区プロ大会においてバンク内観戦や表彰式記念撮影を実施

#### ②ファングッズプレゼントキャンペーンの実施

S S選手オリジナルステッカーや人気選手サイン入りTシャツ等のプレゼントキャンペーンを実施し、ファンサービスに努めた。

#### ③自宅トレーニング動画等の配信

新型コロナウイルス感染症感染予防の観点から、より「おうち時間」を楽しんでいただくコンテンツとして、競輪選手による自宅で行えるトレーニング動画を配信した。また、「コロナに負けるな」等をテーマとした選手からの応援コメントや動画の配信も行った。



② S S選手オリジナルステッカー



③選手による自宅トレーニング動画を配信

# ② 選手の魅力向上による活性化【日競選】

## 基本方針おける記載事項

### 【課題】

競輪選手によるCSR活動等の取り組みについて

### 現状（これまで講じてきた対策）

支部における選手の**社会貢献活動、自転車普及活動、競輪PR活動等の情報**を一元管理し、本会ホームページ、ツイッターに掲載した。

★2016年1月から2020年4月までで448件の活動を掲載

※情報の集約ができていない支部が一部あることから、更なる働きかけを行う。

#### ①クリスマスイベントとして和歌山支部が旭学園児童と交流

毎年恒例クリスマスイベントとして和歌山市の旭学園（児童養護施設）の児童を和歌山競輪場へ招待した。イベントではバンクを歩いたり、自転車で選手と一緒に走ってみたりと交流。自転車2台とお菓子をプレゼントした。

後日、「楽しかった、来年も招待してください」とたくさんの手紙が届くなど、多くの児童に喜んでいただいた。

#### ②千葉ゆうあいピック駅伝に千葉支部が協力

知的障害者スポーツの発展や、自立と社会参加の促進等を目的に実施されている同大会において、千葉支部会員がバイクに代わり自転車で伴走し、参加者が安心、安全に走れるよう協力した。

2019年12月21日、和歌山支部は、毎年恒例クリスマスイベントとして和歌山市の旭学園の児童を和歌山競輪場へ招待しました。

12月21日、和歌山支部は、毎年恒例クリスマスイベントとして和歌山市の旭学園の児童を和歌山競輪場へ招待した。当日はバンクを歩いたり、自転車で選手と一緒に走ってみたりと交流し、自転車2台とお菓子をプレゼントした。その後は去年と同じように 王将ラーメンに来てもらい、みんなで美味しいラーメンを食べた。参加した選手は「今年も自転車の速さや楽しさに触れあってもらえることが出来て良かったです。大人になって競輪選手が職業の選択の一つになってくれれば嬉しいです」と話した。また後日子ども達から「楽しかった、来年も招待してください」とたくさんの手紙が届いた。この日協力したのは池田智毅支部長と北浦弘幹、千原洋音、堺文人、川西亮介、石田将剛、藤田勝也、中野智公、小林史也、中西大、大和航平、日浦崇道、布原大地、南真、古賀勝大、張野幸聖、南蓮の16選手。そしてアマチュアの稲毛知也さん、原田勇真さん白石圭吾さん。



#### ①和歌山支部によるクリスマスイベント



#### ②千葉支部がゆうあいピック駅伝に協力

## ② 選手の魅力向上による活性化【日競選】

### 選手が行った主な新型コロナウイルス感染症対策支援

#### ① 清水裕友、渡邊雄太、石塚輪太郎3選手による新型コロナウイルス感染症対策への寄付

清水裕友（山口）、渡邊雄太（静岡）、石塚輪太郎（和歌山）の105期3選手が新型コロナウイルス感染症対策支援のため、日本赤十字社に総計200万円の寄付を行った。



①新型コロナウイルス感染症対策として200万円の寄付を行った清水（中央）、渡邊（左）、石塚（右）

#### ② 富山支部による新型コロナウイルス感染症対策のための寄付

富山支部が新型コロナウイルス感染症対策における医療従事者支援のために富山市民病院に100万円を寄付した。

#### ③ 広島競輪の参加選手と日本競輪選手会広島支部の寄付

5月7日から9日開催の広島競輪の参加選手49名、先頭誘導選手4名及び開催指導員1名よる5万4千円と、広島支部より20万円の計25万4千円を新型コロナウイルス感染症対策支援のために広島市へ寄付を行った。

#### ④ 古性優作選手による新型コロナウイルス感染症対策支援の寄付

古性優作（大阪）が新型コロナウイルス感染症対策支援のため岸和田市へフェイスシールドを1000枚寄付した。



④岸和田市永野耕平市長（右）と古性（左）

#### ⑤ 千葉市営川崎競輪5月18～20日参加選手による新型コロナウイルス感染症対策の寄付

5月18日から20日開催の千葉市営、川崎競輪において参加全選手104名から集めた10万4千円と、千葉支部の中村浩士支部長が参加中に獲得した賞金から10万円を合わせた計20万4千円を新型コロナウイルス感染症対策として川崎市内の医療機関に寄付した。

# Ⅲ. 2021年度以降の競輪事業の持続的 発展に向けた中期基本方針について

○2016年に決定した「競輪事業の持続的発展に向けた中期基本方針」における目標値のひとつである売上7,000億円以上の達成は、目前にして新型コロナウイルス感染症対策による無観客開催実施や、新型コロナウイルス感染症拡大防止とした施行者判断による相次ぐ開催中止のため厳しい状況となった。



**2021年度以降の競輪事業に向けて**

**「新しい生活様式」を意識した中期基本方針を策定する。**